

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平10-33630

(43)公開日 平成10年(1998)2月10日

(51)Int.Cl. <sup>6</sup>	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
A 6 1 H 35/00			A 6 1 H 35/00	K
33/10			33/10	A
				R

審査請求 有 請求項の数 2 O L (全 4 頁)

(21)出願番号 特願平8-193171

(22)出願日 平成8年(1996)7月23日

(71)出願人 596107637

久保 沙里

大阪府大阪市北区本庄西2丁目5番23号

(72)発明者 久保 沙里

大阪府大阪市北区本庄西2丁目5番23号

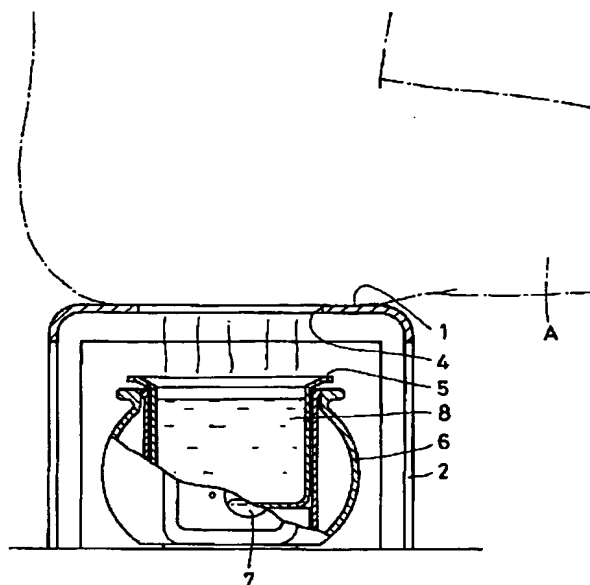
(74)代理人 弁理士 鎌田 文二 (外2名)

(54)【発明の名称】 蒸気浴方法および蒸気浴装置

(57)【要約】

【課題】 薬草類から抽出された有効成分を高濃度に効率よく身体の股間部分に接触させる蒸気浴方法とし、または、身体の股間部分に集中的に薬草の有効成分を接触させ得る浴用の蒸気浴装置を提供することである。

【解決手段】 薬草類の水性抽出液を含有する溶液8を容器5に適量を收容し、ヒータ6で溶液を35～60℃に加熱し、座面1に入浴者Aを座らせて、素肌の股間部分に通常10～30分程度の時間をかけて、薬草類の水性抽出成分を含んだ水蒸気を当てる。身体の股間部分の毛細血管などを介し、薬草類の水性的有効成分が効率よく吸収される。



**【特許請求の範囲】**

【請求項 1】 薬草類の水性抽出液を含有する溶液を加熱して蒸気が発生させ、この蒸気を身体の股間部分に接触させることからなる蒸気浴方法。

【請求項 2】 椅子の座面中央に上下に貫通する蒸気導入用の開口部を形成し、この開口部の下方に薬草類の水性抽出液を含有する溶液入りの容器を配置し、前記容器には蒸気発生用のヒータを付設してなる股間用の蒸気浴装置。

**【発明の詳細な説明】****【0001】**

【発明の属する技術分野】この発明は、身体の股間部分を蒸気浴する蒸気浴方法およびその方法に用いる蒸気浴装置に関する。

**【0002】**

【従来の技術】一般に、加熱された水蒸気を身体全身に当てて血行を高めたり、皮膚の新陳代謝の機能を高めたりするサウナ風呂と呼ばれる蒸気浴方法が良く知られている。

【0003】また、健康を守り、病気の予防を図るために、薬用植物の有用部分を乾燥させた薬草葉が古くから経口用または外用の漢方薬として知られており、そのうちショウブ（菖蒲）などの精油を含有する植物は、そのまま浴湯料として 40℃前後の浴湯に浸漬して用いられている。

【0004】このように薬草類を浴湯料として用いた場合には、揮発した精油などを吸入することによって精神的満足感や鎮静・高揚等の効果があり、また、湯中に抽出された種々の成分で皮膚が適度に刺激されて、湯上がり後の温感が維持される（冷え症防止）という効果がある。

**【0005】**

【発明が解決しようとする課題】しかし、薬草類を浴湯に浸漬したり、またエキスを浴湯に溶解または分散して用いると、有効成分がかなり希釈されるので、薬草類から抽出された成分が効率よく皮膚に接触しないという問題点がある。

【0006】特に、痔ろうや婦人病などといった疾病等を予防し、また健康を維持・促進するためには、身体の特定の部分に集中的に薬浴を施し得ることも有効であるが、このような場合に適当な処置を施す浴用装置はなかった。

【0007】そこで、この発明は上記した問題点を解決して、薬草類から抽出される有効成分を高濃度に効率よく皮膚表面、特に股間部分に接触させることができる浴用方法とし、また、身体の股間部分に集中的に薬草の有効成分を接触させ得る浴用の装置を提供することである。

**【0008】**

【課題を解決するための手段】上記の課題を解決するた

め、この発明においては、薬草類の水性抽出液を含有する溶液を加熱して蒸気が発生させ、この蒸気を身体の股間部分に接触させる蒸気浴方法としたのである。

【0009】また、椅子の座面中央に上下に貫通する蒸気導入用の開口部を形成し、この開口部の下方に薬草類の水性抽出液を含有する溶液入りの容器を配置し、前記容器には蒸気発生用のヒータを付設した股間用の蒸気浴装置としたのである。

【0010】この発明の蒸気浴方法は、薬草類の水性抽出液を所望の濃度となるように添加した溶液を使用し、その水性の有効成分を含む溶液を蒸発させるので、そのような蒸気に所望の濃度の有効成分を含ませることができる。

【0011】そして、この蒸気を身体表面の股間部分に所定温度で接触させると、皮膚表面の毛穴や汗腺がよく開いた状態で薬草類の有効成分が接触するから、その有効成分は、効率よく皮膚表面から吸収されると考えられる。また、身体の股間部分の皮膚表面または粘膜表面に比較的多く分布する毛細血管を介し、そのような有効成分は、かなり効率よく吸収されると考えられる。

【0012】また、股間用の蒸気浴装置の発明では、ヒータで加熱された浴液から、薬草類の水性抽出液を含む蒸気が発生し、この蒸気は椅子の座面中央に上下に貫通する開口部の下方から開口部を通過するように上昇する。このとき入浴者が椅子に座ると、その者の股間部分に蒸気が集中的に当たるので、効率よく有効成分を作用させることができる。

**【0013】**

【発明の実施の形態】この発明に用いる薬草類の水性抽出液は、その薬草の種類を特に限定して調製したものではなく、使用者の症状または要望に応じて、適宜にその成分を変更して使用できるものである。

【0014】通常、使用される主な薬草類を例示すると以下の通りである。艾葉（よもぎ）、重葉（どくだみ）、枇杷葉（びわ）、無花果（いちじく）、柿葉（かき）、太棗（なつめ）、当帰（とうき）、川きゅう（せんきゅう）、香附子（こうぶし）、地黄（じおう）、芍薬（しゃくやく）、車前葉（おぼこ）、陳皮（ちんぴ）、生姜（しょうが）、甘草（かんぞう）、牡丹皮（ぼたんぴ）、桃仁（とうにん）、紅花（こうか）、牛膝（ごしつ）、薄荷葉（はっか）、桂皮（けいひ）、杜仲（とちゅう）などである。

【0015】このような薬草には、さらに必要に応じて、動物質の漢方薬を配合し、長時間沸騰水中にその水溶成分を溶解し、固形物を濾別して水性抽出液を製造する。そして、この発明に用いる溶液は、上記の水性抽出液をそのままか、または過度に濃厚である場合には適宜に水で希釈して用いる。

【0016】そして、浴液は、適当な容器に入れて、電気、ガス、高周波などを用いた周知の加熱手段、好まし

くは温度調節装置やタイマーを備えたポットなどの加熱手段（ヒータ）によって、35～60℃程度に加熱して同温度の蒸気を発生させる。上記所定温度範囲未満の低温では、蒸気の発生量が少なく、また通常のヒトの体温よりも低い蒸気温度になるから、蒸気が当たる皮膚の汗腺が開き難くなり、また血行も十分に改善されないの  
で、薬草成分の効果的な作用が期待できない。また、上記所定温度範囲を越える高温では、長時間の蒸気接触で火傷の症状が現れる恐れがあり、安全性の面で好ましくないからである。このような傾向から、より好ましい加熱温度は、40～55℃である。

【0017】蒸気浴を行なう箇所は、身体の股間部分に対して行なう、なぜならその部分に比較的多く分布する皮膚表面や粘膜の毛細血管を介して、より効率よく有効成分を吸収させるためである。

【0018】このような蒸気浴に適した実施形態の蒸気浴装置を、添付図面に基いて、以下に説明する。図1に示すように、実施形態の股間の蒸気浴装置は、略四角形の座面1と4本の脚部2を有する合成樹脂製または木製の椅子3の座面1の中央に、上下に貫通する蒸気導入用の開口部4を形成し、開口部4の下方に薬草類の水性抽出液を含有する浴液入りの上面開口の容器5を配置し、この容器5を電熱により35～60℃程度に加熱可能な市販のポットからなるヒータ6で保持した股間用の蒸気浴装置である。

【0019】容器5は、ステンレス、鋳物などの金属製、陶器製、耐熱ガラス製その他の周知の材料からなるものであってよく、ヒータ6は、容器5の外側を直接または熱媒体を介して間接的に加熱するものの他、浴液中にシーズヒーターを投入するものなど、その他周知の加熱方式のものを採用することができる。このようなヒータ6には、タイマー7を取り付けて加熱時間を調節し、適当な温度になるようにして用いている。

【0020】図2に示すように、上記の蒸気浴装置を使用するには、別途調製した薬草類の水性抽出液を含有する浴液8を容器5に適量を收容し、ヒータ6で浴液を3

5～60℃に加熱し、図示のように座面1に入浴者Aを座らせて、素肌の股間部分に通常10～30分程度の時間をかけて、薬草類の水性抽出成分を含んだ水蒸気を当てる。

【0021】このようにすると、身体の股間部分の毛細血管などを介し、薬草類の水性有効成分は、かなり効率よく吸収されると考えられる。そして、前記薬草類を全て混合使用した水性抽出液からなる浴液を使用し、成人男女の多数のパネラーで評価したところ、全身の血行が促進されて多量の発汗作用があり、痔ろうや婦人病などの予防に適しており、また健康の維持にも適するものであるとの評価が得られた。

【0022】

【発明の効果】この発明は、以上説明したように、薬草類の水性抽出液を含有する所定温度の蒸気を身体の股間部分に接触させる蒸気浴方法としたので、薬草類の有効成分を高濃度で効率よく特定の皮膚表面に接触させることができるという利点がある。

【0023】また、股間用の蒸気浴装置に係る発明では、身体の股間部分に集中的に効率よく薬草の有効成分を接触させ得る装置であるという利点がある。

【図面の簡単な説明】

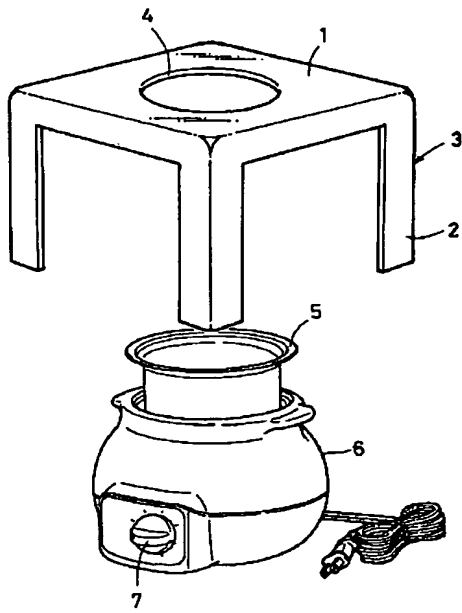
【図1】実施形態の股間用の蒸気浴装置の分解斜視図

【図2】実施形態の蒸気浴方法を説明する蒸気浴装置の一部断面側面図

【符号の説明】

- 1 座面
- 2 脚部
- 3 椅子
- 4 開口部
- 5 容器
- 6 ヒータ
- 7 タイマー
- 8 浴液
- A 入浴者

【図1】



【図2】

